

# 経済システムの漸近安定性問題とその方法論的背景

景山 悟 \*

2016年3月25日

## 概要

1940年代から1960年代までの間に盛んに研究されてきた経済の漸近安定性問題に関する方法論的背景を紹介する。この安定性問題がミクロ的立場、マクロ的立場の両面において、安井琢磨、O.ランゲ、A.フィリップスら理論経済学者に深い方法論的反省を促した点を見る。とくに社会システム論の背景にあるサイバネティクスといった科学方法論が経済学に与えた影響、システム論の意義とその限界を確認する。また、こうした理論的発展の背後にある实在論や機能主義などの認識論的な論点を整理することを通じて、経済学が直面し得る存在論的な課題について考える。